

第12回 星槎横浜絵本研究会のご案内

日時:2023年2月12日(日) 13:30~15:00 ZOOM 開催 テーマ:「うたやリズムを感じる絵本」

★前のご報告★第11回は「私の絵本選び」と題して、皆さまと「絵本選び」について意見交換を行った後、白鷗大学の伊崎純子先生から「私の絵本選びとコミュニケーション・ミュージカリティ」について、お話しいただきました。

■意見交換ダイジェスト:発達に合っている絵本、その時子どもが好きなもの、子どもの実体験に結びつくものを選んで。また、季節や行事に合わせて選ぶ。自分の好みとして、色彩やイラスト、好きな作家さんの絵本を選ぶ等の話しが出ました。子どもの好みと、その時期の子どもに体験してほしい絵本+自分が好きで読んであげたい絵本が選ばれていました。

■伊崎純子先生のお話しダイジェスト:子育ての中で読み聞かせて来た絵本には、その時々子どもたちとの共通点があり、気持ちが分かるのではないかと選んだ絵本、自身が好きな「言葉で遊ぶ」「歌える、節がつく」絵本などがある。また、自分のためには、仕掛けやメッセージのある絵本を選んで思う。最終的には、絵本選びは親の趣味であり、自身の場合は「音」。「コミュニケーション・ミュージカリティ(絆の音楽性)」という概念がある。うまく行っている母子の相互作用は、「音楽の一部を奏でているようだ(五感を使い時間や感情を共有するやりとり)」といわれる。子守歌やわらべうたは、語り掛け自体が節を持つ。音の連なりで、「子どもたちを声で抱っこする」とも言えるだろう。読み聞かせでも、繰り返される音、声への記憶定着、繰り返す安心感と信頼感、そのような中で子どもの言語能力が育まれ、子ども独自の好み形成されて行く。14歳になったわが子に「好きな絵本」を尋ねた所、「読んでもらうなら『あっちゃんあがつく』、「自分で読むなら『かいじゅうたちのいるところ』との返答だった。「親が出て来ない絵本」「1人で、自分の世界で浸る」絵本を選んだことに、彼女自身の「好み」が形成されたと感じた。

■仁平先生から「自分の世界を子どもが持てた」との指摘がありました。皆様からは「声で子どもを抱っこする」という言葉が印象的との感想が多く出ていました。伊崎先生オリジナルの節での絵本の読み聞かせにも、一同引き込まれました。

絵本研究会は…2020年より、年4回開催しています。

- テーマについて、自由に意見交換しましょう。
- 話題の投げかけを行って下さる方も常時募集中です。
- 共有、意見交換の中で、気づき、実践のヒント、新たな研究テーマなどが生まれる場になると嬉しいです。
- 初めての方も是非ご参加下さい。参加希望の方は、下記連絡先へ、ご一報下さい。皆様のご参加をお待ちしています。

★星槎横浜絵本研究会★

代表・連絡先:伊豆田麻子 izuasa224@gmail.com

副代表:藤井淳子(星槎大学大学院博士課程)

顧問:仁平義明(星槎大学大学院教授)